



神を内から呼びなさい。そうすれば神はそこにおわします。全託した魂にとっては、神は常にそこかしこにおわし、絶え間ない「救い」の恩寵と共にいつも応えてくださいます。物語は…帰依者たちを困難な状況から救い出すスワミの奇跡的な介在の物語は、たくさんあります。D. J. ガディア博士からの「アフリカの報告」をお読みください。そこには、1974年に起こった「神の目に見えない無敵の庇護の御手」に関するガディア博士ご自身の物語が述べられています。1978年8月号『サナータナ・サーラティ』誌からの抜粋です。

「キスワヒリ！」

1974年の5月5日のことでした。私は東アフリカのタンザニアのアルーシャから、状態がかなり深刻になってきたという患者を診るために、マチャメ病院へ車で向かっていました。私の妻と、他に二人の女性が後部座席に座っていて、私は運転手の隣に座っていました。アルーシャからまだ5マイル(8km)ほどしか進んでいないときに、一台のトレーラー付きのトラックが、反対方向から速いスピードで近づいて来るのが見えました。30秒ほどでお互いに安全にすれ違うはずでした。しかし突然、重荷を積んだそのトレーラーがトラックから離れ、私たちが滅ぼそうと決めた悪魔のように、私たちに向かってきました。それを止めたり、遅らせたり、逸らせたりする術はありませんでした。

トラックの運転手は、トレーラーが外れたことも知らずにスピードを増しました。私たちの右手にはトラックが、左手には巨大な丸石が地面から20フィート(約6m)ほどの高さでそびえ立っていました。そして、正面からは重荷を積んだ悪魔のトレーラーが、私たちの車に衝突しようと向かってきたのです。

私の車の運転手は、衝突を避けて私たちと“コーティナ（フォードの車種）”を守るために最善を尽くしました。トラックが過ぎ去ると、すぐに運転手は「トラックとトレーラーの間」に向きを変えてハンドルを切り、車の運転席側と後部座席は守ることができました。しかし運悪く、私が座っていた側がぶつかって粉々に砕け散りました。車の前輪が衝突の衝撃で前の座席まで押し上げられ、その結果、私の右足は座席の下に折れ曲がり、膝下が5つの骨片に砕ける多発複雑骨折をこうむりました。左の股関節は脱臼し、ダッシュボードが胸の前部を圧迫して、頭は窓の上と下の縁の間で押しつぶされました。脈はなく、呼吸は停止しました。人々が周りに集まってきて、深い悲しみの中で「気の毒なお医者さん！ 何という死にざま！ 誰が神のご意志に逆らえようか！」と嘆き悲しみました。

私は生きており、プラシャーンティ ニラヤムにいて感じていました。ババが私に低い声で囁きました。（どうしてババが私にそのように囁いたのかは不思議に思いましたが…）

「起きなさい、そうしなければあなたの足はもう駄目になりますよ」

「ババ！ ババ！」私は大声で呼びました。

その声を周りの人々が聞いたとき、彼らは私がまだ生きていることに気づき、驚きました。彼らは車を巨大なトレーラーの下から引きずり出し始めました。

ちょうどそのとき、人々は騒音の中で「キスワヒリ！」という叫び声を聞きました。二人の屈強そうなアフリカ人が現れて、

「キスワヒリ！（「道をあけてください！」という意味）、私たちにその医者を外に出させてください」と言いました。二人は他の人たちを車の周りから遠ざけて、救助作業の責任を完全に引き受けたのです。「私たちはこの医者を外に出す」と二人は言っているかのように見えました。二人は持ち前の体力を使って窓を切り開け、ダッシュボードを押し戻し、右足が下にはまり込んでいたプレートを取り除きました。二人は座席の下にジャッキを入れて、それを後ろに引っ張りました。しばらくして、二人が体に触れて様々な方法で対処しているときに、私は少し意識を取り戻しました。私は水を求め、水が与えられましたが、ほんの数滴すするのでさえ大きな困難を伴いました。そして、再び私は意識を失いました。

人々がのちに話してくれたことによると、その二人のアフリカ人は1時間半以上にわたり、私の体を破損した車から引き出して、救急車に乗せる努力をしてくださったとのことでした。それが済むやいなや、彼らは消え去り、誰も彼ら

が何者であったのかは分かりませんでした。その後、何年か経ちましたが、二人は一度も姿を見せていません。もし彼らが「本物」であったのなら、彼らは時宜を得た非常に貴重な援助をするという何らかの認識を見越して、アルーシャに來たにちがいないでしょう。

1978年4月19日から20日にかけて、私はババがいらっしゃるバンガロール近郊のホワイトフィールドにある布林ダーヴァン（ババのアシュラム）にいました。私は依然として、歩いたり階段を上ったりするのに杖を使う必要がありました。ババは2度、私をインタビューに呼んでくださいました。ババはその事故を知っていたと言われました。

「あなたの脊髄は完全に押しつぶされていたので、あなたに新たな命を授けるために、私は二人のアフリカ人の姿をとる必要がありました。あなたの奥さんは彼女がわきに引っぱり出されたときに驚いていました。私は彼女に、あなたのことを心配する必要はないと保証しました」

ババの無限の愛により、ババは自らの手で物質化したヴィブーティー（神聖灰）を私の右膝の関節に塗ってください、杖を必要としていた右足の不具合を取り除いてくださいました。私はそれ以来、事故に遭う前と同じように、歩いたり階段を上ったりすることができるようになりました。

